

ズバリ！市長に聞く

〜2013 初市民対談〜



インタビューー須田郁子さん

新春特集

ズバリ！市長に聞く

〜2013 初市民対談〜

十分に、市内中小企業の技術で出来る事が確認されました。これから、この機械を国内だけでなく世界に売っていくためには、モデルをつくらなければならぬと思っております。使用した紙おむつをどのように集めるのか。当然、市民の皆さんやそれぞれの施設から協力してもらわなければなりません。回収したら、ペレット状に加工する工場も作らなければなりません。ペレットにしたものをどう使うのか。例えば、農業用のハウスで油に変えて燃料とする場合は、ハウスで使う設備も開発しなければなりません。開発したものを受け入れるように助成する支援策なども考えなければなりません。そういったモデルを作

今年初の市民対談を開催！
インタビューーに須田郁子さん（関）をお迎えし、市民が率直に聞きたい市政のこれからを横山市長にズバリ聞いていただきました。

須田さんは昨年の5月から仁賀保庁舎生活環境課の窓口で週3日、消費生活相談員として市民のみなさんの相談に応じています。民生委員の方々の連携や、自治会の集会に出向き消費者相談を受けるなど、市民の声を聞いてきました。

須田郁子さん（以降は須田さん）
今回、市民のみなさんが聞きたいことを、私が代表してお話を伺いたいと思います。
早速ですが昨年を振り返ってみて、どのような年でしたか。

横山市長（以降は市長）
2年連続での大雪で年が明けました。その後も4月に爆弾低

り、実践して見せることによつて、その品物は売れていく。そういったモデルを新しい年から作っていくと考えています。

二つとして、これから野菜工場というものが出来てくると思います。空き工場を使って、電子部品でなく食品加工の分野にも進出していくと思っております。そういったことも支援していきたい。農家や集落営農と連携しながら、加工と販売は製造業が行うシステムもこれから作っていく必要があると思っております。

三つとして、将来的には、地元企業も、海外に出ていく必要もあると思っております。11月の中旬、バンングラディッシュに行きました。なぜバンングラディッシュかという点、今、タイはもの凄く経済発展しています。タイの次はミャンマーに移る。そのミャンマーの隣がバンングラディッシュなのです。インドの隣でもあります。これから発展する国バンングラディッシュの若い人にかほ市で技術を教え、自国で起業してもらおう。ある程度一人前になったら市内企業と合併企業を立ち上げ、向こうの大

気圧の発生。夏は雨の少ない記録的な猛暑が続き、10月には金浦地区で竜巻とみられる突風被害が発生するなど、そういった面からすると、24年も自然の驚異にさらされた1年でなかったかなと思えます。また、市内主力企業の生産体制の見直しや歴史的な円高などで、地元中小企業の仕事量が大きく減り、多くの離職者が出るなど大変厳しい1年でした。急激に雇用情勢が悪化している状況は、迎えた新しい年も変わりありません。先行きが不透明で大変厳しい経済情勢になるのではないかと思います。

また、市と県が連携して誘致したフードセンターは12月3日に入社式を行いました。採用された105名の内、市民は83人です。このように160人弱の方々が再就職している現状です。3月以降、生産体制の見直しなどが最終段階を迎え、更に市民約120人が離職します。今、新たに100人規模のフードセンターの誘致に向けて取り組んでいます。

須田 いま市長が、雇用情勢が悪化しているとおっしゃいましたが、これまでの取り組みと、今後の雇用対策について教えてくださいいただけますか。

また、雇用の吸収力がある中小企業をいかに活性化し、再生していくかが大きな課題です。一つとして、地元の中小企業が製造する製品を持つことが非常に大切だと思っております。今、市と企業が一緒になり「紙おむつの資源化」に取り組んでいきます。高齢化社会が進むにつれ大量に出る紙おむつを資源化する機械の製作です。機械の性能を良くし、大きさをコンパクトにする研究に取り組んできました。

市長 これまで、市民約290人が離職しました。市も、離職した方の再就職に向け、様々な取り組みを行い、結果として、多くの企業等から再就職の受け皿に力を注いでいただき、これまで70人を超える方が再就職しています。この中には、廃校となった旧釜ヶ台小中学校に誘致

市長 由利本荘市を含めると、これまで510人を超える方々が離職しました。にかほ市民が290人。平成14年のITバブル崩壊、この前のリーマンショックでも、割と早く復活しました。今回の場合は、円安にならなければ復活はなかなか難しいのではないかと思います。

須田さんは消費生活相談のなかで、何か感じる点などありますか。

須田 ハローワークでは、今までの経験を生かした仕事に就きたいという人が多いと聞きますが、実際には厳しい状況なのではないでしょうか。

須田 人は心に不安なことがあると正しい判断ができなくなりがちです。また、家にいる時間の長い年配の方が、日中1人でいる時に電話がかかってきたり、訪問されたりして、寂しいという気持ちからつい話を聞いてもらっているうちに、不要なものを買ってしまったり、トラブルに巻き込まれることが多いようです。

市長 今の状況では、自分がやってきた仕事、やりたい仕事を、この地域で探すのは難しいと思えます。フードセンターは当市では初めてです。盛岡市のフードセンターを見学してきました。旅館、ホテルの予約受付業務では、そのホテルに泊まりながら研修し、ただホテルの予約だけでなく「近くにはコンビニがありますよ」とか周辺状況も予約の際にお話しするそうです。研修を続けていけば面白い面も出てくるのではないかと思います。

次ページへ続きます